

6th International Symposium on Structure and Function of Roots - Plant Root Development and Adaptation to Stresses (Stará Lesná, Slovakia, Sept. 2 - 6, 2003) に参加して

伊藤 香織

東京大学大学院農学生命科学研究科

今回参加したのは、『第6回根の構造と機能に関する国際シンポジウム—ストレス条件下における植物根の発育と適応—』という題でのシンポジウムです。9月2日から6日まで、スロバキアのスタラレスナ(都市名)で開催されました。このシンポジウムは、スロバキア科学院の植物学研究所(<http://ibot.sav.sk/page/index.html>)の主催で、5年に一度(7年の時もあり)スロバキアを代表する名山タトラ山にあるスタラレスナで、合宿形式で行われているものです。前回の第5回シンポジウムの内容については、名古屋市立大学の谷本先生が報告文を書かれています(1)。

今回は世界21カ国から、延べ100人近い研究者が集まり、日本からは、根研究会会長の谷本英一先生(名古屋市立大学)をはじめ、国立環境研究所の方々、名古屋、鳥取、愛媛大学の先生達や学生が9名参加しました。セッションは以下のように4つにわかれており、

1. Cellular and molecular aspects of root growth and development
2. Transport processes in roots
3. Root-shoot interactions
4. Roots under stress conditions

それぞれ、午前と午後に口頭発表で3,4名、ポスターは2回に分けて夕方に約10名の発表が行われました。スロバキアは、植物形態学の研究などに伝統のある国で、このシンポジウムでも従来は、そうした分野の発表が多いのが特徴ですが、今回はそれに加えて、分子生物学的手法を用いた発表や、ストレス(水、Al、Cdなど)に関しての発表が数多く行われていました。

さらに、日本の学会の場合、イネを用いた

発表が多いのが特徴ですが、今回のシンポジウムでは、トウモロコシ、マメ、オオムギなどの作物種や、また耐乾性が強いとか特定の地域に生息するような材料を用いた報告も特徴的でした。また、スロバキアの研究者や学生達の発表では、現場における実践面を重視してのCdやAlを扱ったものが多く見受けられました。特に、どの発表やポスターも写真を多く載せており、綺麗で見やすいものばかりでした。今回のシンポジウムでは、審査に通った論文が、後日、スロバキアの英文誌Biologia(http://ibot.sav.sk/Biologia/Biologia_index.html)の特集号として掲載される予定です。

学会自体の雰囲気は、すごくアットホームな感じで、食事も皆で一緒に食べるためか、すぐにお互いに顔を覚えるほどでした。また、夕食後も、それぞれに各国の研究者同士が夜遅くまで、楽しそうに話しており、また発表について議論している場面もあちこちで見られました。最終日の前日に行われたFarewell Partyでは、スロバキアを始め、イタリア、スペインなど、それぞれの国の人たちが歌を歌ったり、踊ったり、とても賑やかで楽しい場でした。私達、日本の学生は、簡単なマジックを披露した後に、スロバキア由来と言われている『おー牧場はみどり』を歌いました。すると、今度はスロバキアの人達が、スロバキア語で歌うなど、音楽を介しての交流が出来てとても嬉しかったです。この日は、夜中に、ホテルの近くにある天文台に皆で行き、話題の火星と綺麗な天の川を見ました。日本では、見られないぐらいたくさん星が見えて感激してしまいました。さらに、学会期間の中日にエクスカッションが盛り込まれ

2003年9月16日受付

*連絡先 〒188-0002 東京都西東京市練町1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科附属農場 生産・環境生物学専攻 生産生態学研究室
Fax: 0424-64-4391 E-mail: k-ito@fm.a.u-tokyo.ac.jp

ており、今回は Pieniny National Park の Dunajec 川を船でくだる（ラフティングよりは穏やか）というものでした。あいにく曇り空で寒かったのを除けば、ポーランドとスロバキアの国境の川を2時間かけて下っていくのはすごく気持ちのいいものでした。

最後に、このように各国から根の研究者が集まって、お互いに意見交換ができたことは、自分にとっても貴重な経験でした。次回は5

年後の2008年に開催される予定ですが、再び参加できるように、今回の学会で得た経験を、今後の研究生活に生かせるように努力していきたいと思います。

(1)谷本英一 1999. The 5th International Symposium on Structure and Function of Roots. August 31-September 4, 1998, Stara Lesna, Slovakia 報告. 根の研究 8(1) 20.

